

新たな市政運営の総合的な指針に係る庁内策定検討委員会・同専門部会合同検討会議

日時 2013年5月11日（土）

午後1時30分

場所 第3庁舎第3会議室

日 程

1 開会

2 議題

(1) 専門部会一次素案の報告について（資料1-1～1-3）

(2) 一次素案に関する質疑

(3) 意見交換（資料2-1）

ア 構成について

イ 長期展望について（資料2-2）

ウ 将来像について（資料2-3, 2-4）

エ 指針の名称について（資料2-5）

3 閉会

（事務局 企画政策課 内線2171）

新たな市政運営の総合的な指針の構成素案 1

計画期間：平成26年度～平成28年度

長期展望

指針の背景となる向後20年程度の藤沢市を取巻く情勢の変化と課題・藤沢の財産

①人口推計 ②歳入見通しと扶助費の見込み ③公共施設・社会基盤の老朽化 ④地震・津波への備えと対応等

めざす藤沢の姿

5つの都市像の実現を追求することで「めざす藤沢の姿」に近づいていく。

【めざす藤沢の姿】 やわらかでやさしい風に誘われる湘南の文化・産業・生活があるまち 藤沢

【5つの都市像】

いのちと財産を守り、
安全で安心な生活を実感できるまち

歴史や文化、自然と四季を大切に、
郷土への愛着を実感できるまち

都市基盤と産業、観光が栄える
ことによって、快適さと活力を
実感できるまち

子どもからお年寄りまで、
健やかな暮らしを実感できるまち

市政参加や地域でのパートナー
シップから共生・共創・共育を
実感できるまち

重点目標と分野別方針

将来像の実現に向け、計画期間に重点的に取り組む目標と方向性

災害などに備える
(分野別方針) 防災・消防

文化・スポーツに親しむ
(分野別方針) 歴史・景観・文化・生涯学習・スポーツ

豊かな環境を創る
(分野別方針) 環境と緑・再生エネルギー

子どもたちを守り育む
(分野別方針) 子育て支援・学校教育・青少年

市民が元気になる
(分野別方針) 高齢者福祉・障がい者福祉・地域福祉・保健医療

地域経済を循環させる
(分野別方針) 商工業・農水産業・観光

都市基盤を充実する
(分野別方針) 都市基盤・交通・公共資産

市民自治・地域づくりを進める
(分野別方針) 市民活動・地域まちづくり・平和・人権男女

分野別方針・事業を重点化

重要・主要事業

重点目標に対してリーディングプロジェクトとなる重要事業と主要事業

長期的課題

重点目標の達成に向けての将来的な事業実施のために、情勢を踏まえながら構想，検討すべき課題

行財政運営のあり方

指針の実行の基本となる取り組みのあり方

行財政改革の推進

「将来収支・経済効果を見据えた事業の効率化を図る改革」「市民サービスの質的向上を図る改革」「コスト意識の徹底を図る改革」の推進

中期財政見通し

中期歳入見通しと経常的経費支出予測から政策的経費充当可能額

公共施設等の再整備の方向性

行財政改革におけるフローとストックの総合的な方向性，施設更新における機能の代替，陳腐化までの期間を想定した施設のライフサイクルのコスト面，サービス面からのあり方等を踏まえた公共施設等の再整備方針づくり

計画の進め方

指針の取り組みの進め方

進捗管理

事務事業評価を中心とした事前，事後の事業評価と政策，施策評価

各部門における取り組み（個別計画）

個別計画（部門別計画）における事業推進は，指針との理念の共有化を図りつつ，事業推進や進捗管理，総合的施策推進については部門別計画に委ね，役割を分担

資料

より理解を深めるための数値，背景

1 総合計画の課題とこの指針の取り組み 2 藤沢市の将来人口推計 3 藤沢市の将来的な課題 4 藤沢市の土地利用と都市基盤 5 これまでの藤沢市の将来像 6 市長公約（5つのビジョン） 7 分野別方針と評価指標 8 中期財政見通し（政策的経費充当可能額と投入予定事業費） 9 総合計画廃止の経過

新たな市政運営の総合的な指針の構成素案 2

計画期間：平成26年度～平成28年度

長期展望

指針の背景となる向後20年程度の藤沢市を取巻く情勢の変化と課題・藤沢の財産

①人口推計 ②歳入見通しと扶助費の見込み ③公共施設・社会基盤の老朽化 ④地震・津波への備えと対応等

めざす 藤沢の姿

5つの都市像の実現を追求することで「めざす藤沢の姿」に近づいていく。

【めざす藤沢の姿】 **いのちと財産を守り, 安全で安心な生活を実感できるまち 藤沢**
都市基盤と産業が栄え, パートナーシップをはぐむ,
快適さと活力を実感できるまち 藤沢

重点目標 と分野別 方針

将来像の実現に向け、計画期間に重点的に取り組む目標と方向性

災害などに備える
(分野別方針) 防災・消防

都市基盤を充実する
(分野別方針) 都市基盤・交通・公共資産

市民自治・地域づくりを進める
(分野別方針) 市民活動・地域まちづくり

重要・主要 事業

重点目標に対してリーディングプロジェクトとなる重要事業と主要事業

長期的課題 重点目標の達成に向けての将来的な事業実施のために、情勢を踏まえながら構想、検討すべき課題

将来像・政策・事業を重点化

行財政運 営のあり方

指針の実行の基本となる取り組みのあり方

中期財政見通し

中期歳入見通しと経常的経費支出予測から政策的経費充当可能額

公共施設等の再整備の方向性

行財政改革におけるフローとストックの総合的な方向性、施設更新における機能の代替、陳腐化までの期間を想定した施設のライフサイクルのコスト面、サービス面からのあり方等を踏まえた公共施設等の再整備方針づくり

計画の進 め方

指針の取り組みの進め方

進捗管理

事務事業評価を中心とした事前、事後の事業評価と政策、施策評価

各部門における取り組み（個別計画）

個別計画（部門別計画）における事業推進は、指針との理念の共有化を図りつつ、事業推進や進捗管理、総合的施策推進については部門別計画に委ね、役割を分担

資料

より理解を深めるための数値、背景

1 総合計画の課題とこの指針の取り組み 2 藤沢市の将来人口推計 3 藤沢市の将来的な課題 4 藤沢市の土地利用と都市基盤 5 これまでの藤沢市の将来像 6 市長公約（5つのビジョン） 7 分野別方針と評価指標 8 中期財政見通し（政策的経費充当可能額と投入予定事業費） 9 総合計画廃止の経過

新たな指針の構成と内容について

将来見通し（＝長期展望）

1 必要性

向後20年程度の藤沢市を取巻く情勢の変化について、数値的な背景を踏まえつつ、将来における社会問題の要因となり得る項目について展望する必要により位置づけます。

2 内容

次の内容を位置づけます。

(1) 本市を取り巻く社会情勢

将来に向けての市政運営上、影響を与えると想定される項目について、その動向を分析します。

ア 将来人口推計（総人口、3区分年代別人口、地区別人口）

イ 歳入と社会保障費の見込み（中長期財政見通しは別に記載）

ウ 公共施設・都市基盤の老朽化

エ 地震・津波への備えと対応

(2) 将来課題

社会情勢の状況分析に加え、藤沢の将来を想定した考慮すべき課題を位置づけます。

ア 少子化，高齢化，生産年齢の減少

イ 厳しい財政状況（歳入の減少と社会保障費の増大）

ウ 公共施設の老朽化対策と将来負担

エ 備災，防災，減災，復災，克災

(3) 藤沢の財産

風光明媚，温暖な自然環境に加え，都市構造と市民により培われた市民自治の財産を位置づけます。

長期展望

指針の背景となる向後20年程度の藤沢市を取巻く情勢の変化と課題・藤沢の財産

①人口推計 ②歳入見通しと扶助費の見込み ③公共施設・社会基盤の老朽化 ④地震・津波への備えと対応等

めざす藤沢の姿（＝将来像）

1 必要性

次の項目の必要性により，位置づけます。

ア 分かりやすさ

行政計画として，市民の意見を聞きながら市がまとめ，市民に訴求し，理解を得るためにも分かりやすいイメージを定義する必要によります。

イ 市長公約

「いきいき働ける藤沢」に「長期的なビジョンを持った市の未来像を策定します。」とあり，公約達成のためにも明確な形で定義する必要によります。

2 内容

内容については，次の要素を満たす必要があります。

(1) 総合性・網羅性

重点化計画として将来像，施策の重点化，選択を表すことは，体系上の効果が高いものと想定されますが，その反面，市長公約を達成し，鈴木市政における総合的な取り組みを考慮した際に，未着手，未実施の印象を受ける可能性があるため，重点政策に繋がる都市像を示しつつ，一定の総合性，網羅性を有することが必要となります。

(2) 市長公約の反映

市長の掲げる「郷土愛あふれる藤沢」と「5つのビジョン」は政策レベルよりも大きい範囲で示されており，公約事業との紐付けを考慮する上で将来像のレベルに位置づける必要があります。その場合，完全一致又は溶け込みの方法が想定されますが，普遍性を持たせる上では，市歌，市民憲章，都市宣言，過去の将来像にあわせて市長公約を溶け込ませることが妥当であると考えます。

(3) 分かりやすく，親しみやすい惹句

職員，市民への浸透を図るため，イメージが伝わりやすく，共感されやすいよう，ワンフレーズの惹句（キャッチフレーズ）とすることが必要となります。

3 提案

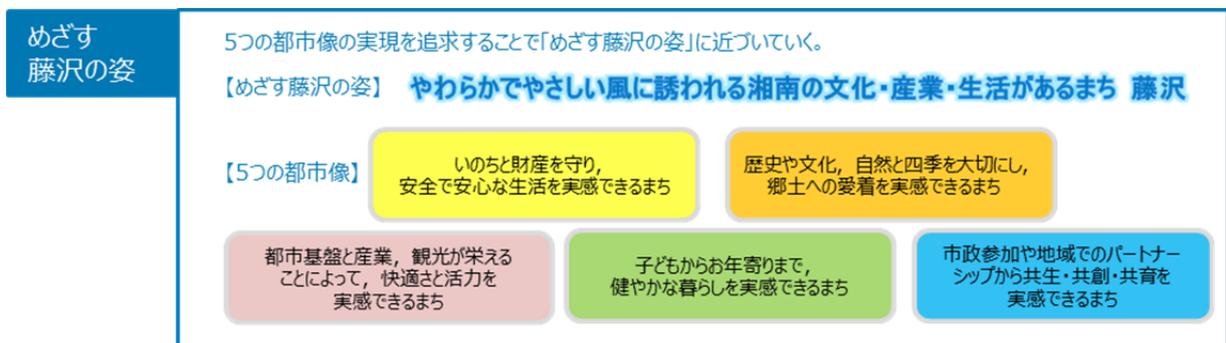
5つの都市像を掲げつつ，めざす藤沢の姿により都市像をひとつにまとめます（下線は市長公約等から，太字は市歌，市民憲章等からの反映）。

めざす藤沢の姿

やわらかでやさしい風^①に誘われる、湘南の文化・産業・生活があるまち 藤沢

5つの都市像

- ・ いのちと財産を守り，安全で安心な生活を実感できるまち（命を守り災害に強い藤沢）
- ・ 歴史や文化，自然と四季を大切にし，郷土への愛着を実感できるまち（郷土愛あふれる藤沢，いきいき働ける藤沢）
- ・ 子どもからお年寄りまで，健やかな暮らしを実感できるまち（みんなにやさしい藤沢）
- ・ 都市基盤と産業，観光が栄えることによって，快適さと活力を実感できるまち（いきいき働ける藤沢）
- ・ 市政参加や地域でのパートナーシップから，共生・共創・共育を実感できるまち（ずっと安心して暮らせる藤沢，法とモラルを守る藤沢）



重点目標と分野別方針（＝重点政策・主要な施策）

1 必要性

将来像の実現に向けた具体的な取り組みの方向性を位置づける必要があります。そのため重点目標として，重点的に取り組む政策を位置づけるとともに，重点政策を踏まえた各分野の基本的な方針について示します。重点政策と主要な施策は政策と分野別方針として一体化させることとします。重点化計画としての特徴づけは，事業の重点化によるものとします。

（重点政策と主要な施策を一本化する理由）

政策と施策の両方を位置づけることは、指針を体系化しやすくする反面で、政策数に応じて施策数も増えることから体系が複雑に見ることがあります。分かりやすい計画体系を維持するため、各政策における説明内容として分野別目標(施策)を位置づけます。

(重点目標の範囲)

重点目標については、次の理由により政策を限定することが困難であるため、幅広く位置づけます。

- (1) 「めざす藤沢の姿」と「5つの都市像」は将来に亘る実現を目標としているが、その実現には、総合的な政策の取り組みが必要となるため。
- (2) 重点化されない政策は実施していないように認識される可能性があるため、政策レベルでは総花的せざるを得ない状況を考慮する必要があるため。
- (3) どの部門の事業でも重要・主要事業として位置づけることができる体系を維持する必要があるため。

2 内容

内容については、次の点を考慮する必要があります。

(1) 平成25年度施政方針との連続性

平成25年度施政方針には「実感」を高める7つの「重点政策」が位置づけられており、この内容との整合を図り、連続性を担保する必要があります。

(2) 政策の補完

重要・主要事業の変化に対応し、事業を浮かび上がらせるため、政策は網羅性を確保するように、全体を補完できる政策を位置づける必要があります。

3 提案

8つの重点目標と目標に対応する分野を位置づけます。

・重点目標1 災害などに備える

東日本大震災の地震・津波災害を貴重な教訓として、藤沢の災害対策を更に充実させるとともに、火災、救急活動における迅速化と高度化を図ります。また、日頃からの備えとして、地域での備えや支えあいを進めます。これらによって、市民が不安なく安心して暮らせる都市を整備します。この目標に向かって消防、防災、防犯、交通安全等の取り組みを進めます。

・重点目標2 文化・スポーツに親しむ

藤沢の様々な歴史，後世に伝え残すべき景観を生かしつつ，市民による芸術文化活動と湘南の地域特性を生かした生涯スポーツ活動の場をつくることにより，市民一人ひとりが身近に文化・スポーツを楽しめる環境を創出します。この目標に向かって，場をつくることにより，景観，芸術文化，生涯学習，スポーツ等への取り組みを進めます。

・重点目標 3 豊かな環境を創る

美しい湘南海岸や緑豊かな相模野台地をはじめとする，恵まれた自然環境は，人々を惹きつけ，藤沢への愛着を生む大切な財産であるため，これらを守り育てるとともに，エネルギーの地産地消や効率的利用を図り，市民生活と都市の持続性を向上します。この目標に向かって，海，川，土，みどり等の自然環境と廃棄物，資源，エネルギー等の生活環境に対する取り組みを進めます。

・重点目標 4 子どもたちを守り育む

地域全体で子どもたちを見守り支えあい，子どもたちが健全に育つ環境をつくることにより，次代の都市社会の活力を創出します。この目標に向かって，子育て支援，学校教育，青少年の健全育成等への取り組みを進めます。

・重点目標 5 市民が元気になる

すべての市民が生涯を通じて，馴れ親しんだ地域の中で心も身体も元気で，その人らしくいつまでも生きがいをもって暮らし続けられる環境を整え，市民一人ひとりに対応した，きめ細かな福祉を充実し，健康を増進します。この目標に向かって，高齢者福祉，障がい者福祉，地域福祉，保健医療等の取り組みを進めます。

・重点目標 6 地域経済を循環させる

「地域経済の循環」とは，市内でお金がまわる仕組みをつくることにより，市内産業を発展させ，市民への還元を高める本市の経済再生を図ります。この目標に向かって，広く市内農水産業，商工業，観光等への取り組みを進めます。

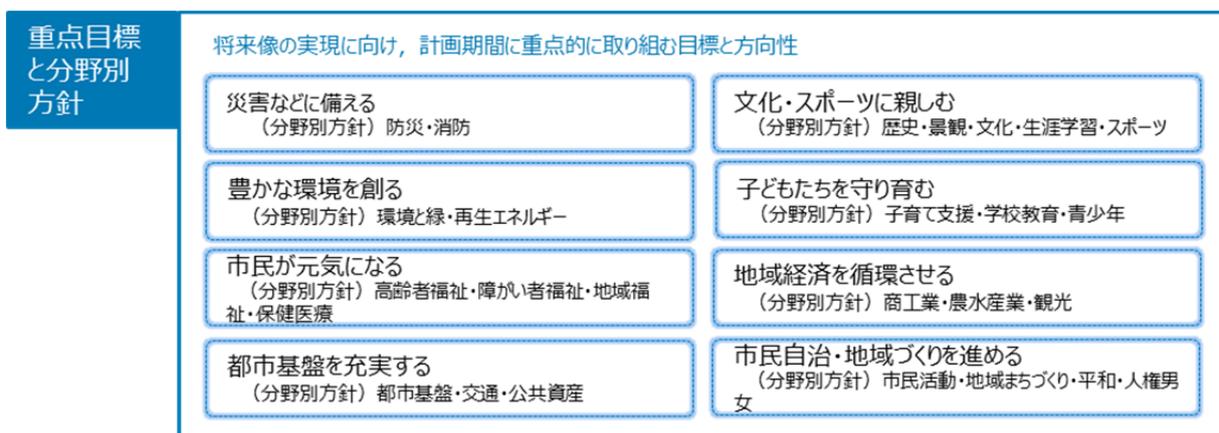
・重点目標 7 都市基盤を充実する

市民生活を支え，経済の活性化を促し，都市の優位性を高めるために，長期的な視点に立って市民生活の変化や経済情勢に対応した都市基盤施設の

改善・整備を進めます。社会資本全体の再整備は、現有する資産を有効に活用しつつ長寿命化させつつ、新たな整備を進め、市民にとって安全、快適で便利な都市としての充実を図ります。この目標に向かって、道路、橋、下水道をはじめとする都市基盤、交通体系、公共資産等の整備を進めます。

・重点目標8 市民自治・地域まちづくりを進める

市民自治が育まれてきた長い市政の歴史を、時代に即した形で継承、発展し、地域社会に根差した市民活動、まちづくりを活発にします。また市民が中心の都市として、差別や偏見、争いのない環境を整備します。これらの目標に向かって、市民自治、地域まちづくり、平和、人権男女等の取り組みを進めます。

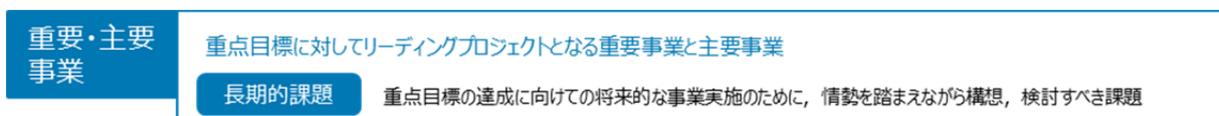


重要・主要事業

指針に位置づける事業は、重点目標の達成に向けて必要な事業のうち、特に指針の期間において実行すべきものとします。

主要事業のうちリーディングプロジェクトとなる事業や特に重点的に注力する事業については、重要事業として位置づけます。

また、将来的な事業実施のために、情勢を踏まえながら構想、検討すべき課題を長期的課題として位置づけます。



行財政運営のあり方

行財政運営のあり方として、行財政改革の方針、中期財政見通し、各部門における取り組みを位置づけます。

1 行財政改革の方針

「藤沢市 新・行財政改革基本方針」に基づく、「将来収支・経済効果を見据えた事業の効率化を図る改革」「市民サービスの質的向上を図る改革」「コスト意識の徹底を図る改革」を位置づけます。

2 中期財政見通し

中期歳入見通しと経常的経費支出予測から政策的経費充当可能額を算出します。

3 公共施設等の再整備の方向性

長期展望における将来課題を踏まえ、公共施設等の再整備方針を別に位置づけることを示します。

計画の進め方

計画の進め方として、進捗管理と部門別計画との関係について示します。

1 進捗管理と評価、見直し

進捗管理は、事業については事務事業評価を中心に用い、政策・施策評価については市民満足度調査を用いることを位置づけます。

また、事業評価については、事前、事後をそれぞれ予算の概況と主要な施策の成果に表すことを示します。

2 各部門における取り組み（個別計画）

個別計画（部門別計画）における事業推進は、指針との理念の共有化を図りつつ、事業推進や進捗管理、総合的施策推進については部門別計画に委ね、役割を分担します。

資料編

本編は極力分かりやすく簡潔なものとするため、背景、数値等については、資料編として別章立てとします。

1 総合計画の課題とこの指針の取り組み

- 2 藤沢市の将来人口推計
- 3 藤沢市の将来的な課題
- 4 藤沢市の土地利用と都市基盤
- 5 これまでの藤沢市の将来像
- 6 市長公約（5つのビジョン）
- 7 分野別方針と評価指標
- 8 中期財政見通し（政策的経費充当可能額と投入予定事業費）

意見交換のテーマとポイント

1 構成について

資料 1 - 1 ~ 1 - 3 をもとに、構成についてご検討ください。

具体的には、長期展望、目指す藤沢の姿（将来像）、重点目標と分野別方針（重点政策、主要な施策）、重要・主要事業等について、位置づける必要性、省く理由、新たに追加すべき項目と理由等についてご検討ください。

2 重点化計画としての仕組みについて

重点化計画として、総合計画とは異なる仕組みを構築し、それを明らかにする方法についてご検討ください。

具体的には、長期展望、目指す藤沢の姿（将来像）、重点目標と分野別方針（重点政策、主要な施策）、重要・主要事業等のうち、重点化する項目についてご検討ください。

3 長期展望について

追加すべき項目についてご検討ください。

4 将来像について

(1) 位置づける内容について

将来像については、主として目に見える藤沢の風景等を示すものと、市民の心的な内面を示すものを提案いただいています。どちらを示すべきか、両方を示すべきかについてご検討ください。

(2) 位置づける数や方法について

将来像はひとつのフレーズでまとめるべきか、幾つかの将来像を位置づけるべきかについてご検討ください。あわせて、将来像と都市ビジョン、将来像と市民の姿といった将来像を位置づける方法についてもご検討ください。

新たな市政運営の総合的な指針策定検討委員会

藤沢の長期展望に関する意見提案

長期展望として、将来像の実現に向けての課題点、留意する点、伸ばしたい点などはどのようなものかと考えますか。

キーワード

- 社会資本、公共施設の老朽化
 - 人口減少、少子化、高齢化社会、超高齢社会
 - 市民ニーズ、市民満足度
 - 市民意識、市民の育成
 - 公的責任領域
 - 連携、協働、コミュニティ、ネットワーク
 - 財源、財政力
 - 職員の資質、組織
- 社会資本の課題は高齢化社会への準備として、投資的事業の概ねの完成を図っておく必要がある。社会資本整備には長い時間が必要であることと、過去のストック（過去に築造した道路等）の承継、活用、転用が必要であることです。
- 10年前の予測で社会資本ストックの更新・維持管理費が2025年には投資額の50%を占める予測で、施設の長寿命化を施しても永遠ではないことに注意する必要があります。
- 都市としての魅力づくりの進め方
- 都市としての魅力づくりには、ハード、ソフトの両面で、多種多様な市民ニーズに的確に答えていかなければならないこととなります。また、その市民ニーズが何かを十分に調査検討し、選択していくことが課題となります。
- 福祉の充実と防犯、防災に対する取り組みの充実
- 人が生活していく上で、幸せとを感じるためには、日々の生活が充実していて将来に不安が無いことである。そのためには、高齢化社会に対応したきめ細かで効果的な福祉の充実を図る必要がある。また、併せて治安の安定や防

災・減災対策を進めていくことが課題となる。

- モノ・金・時間には限りがあります。また、行政が行う施策にも自ずと限界があります。
- 外観，形式にこだわることなく，実質的に市民が納得し，満足感を得られるか，という点も施策を選択する上での1つの尺度となると思います。
- 既存の制度，常識にとらわれない発想をすることと，そういう発想を市として思い切って採用できるか，ということがポイントとなると思います。
- 課題に真っ向から立ち向かう骨太の施策と，既存の制度の隙間を上手に埋めるようなきめ細やかな施策を組み合わせることも効果があると考えます。
- 市のなすべきことはどこまで
 - 今後大幅に増大するであろう扶助費について，国・県の指導もさることながら，市がなすべきところを熟慮し，地域住民を支えるうえで，ときには毅然とした判断が必要となります。
- 財源の確保について
 - 今後の本市の財政支出は，新庁舎建設，公共施設の老朽化対策，少子高齢化の進展による社会保障関係費，災害に要する費用等による大幅に増が見込まれていることから，市民サービスを確保しながら，いかに財源を確保していくかが課題であると考えます。
- 将来像については，ビジョンを，より分かりやすく具体的な表現で膨らませたものにしていくことが必要であると思います。それぞれのビジョンに係る課題や具体的な施策を挙げ，各課題や施策について，各課における計画等とも整合を図りながら，鈴木市政の考える「方向性」（「長期展望」だけでなく「中期展望」も含めて。）を示す必要があると思います。この「中・長期展望」に基づき，計画期間である平成28年度までに予算化し，実現していく施策のほか，この期間には実現できないものについても，その課題等を整理した上で，「考え方」あるいは「方向性」を示していく必要があると思います。そのためには，前提となる中期的（今後10年程度）な財政計画または財政見通しも併せて記載していく必要があると思います。
- 財政力の向上
- 市民，企業，団体，行政による協働（マルチパートナーシップ）とその基盤

となる市民に開かれた行政の展開

- 行政を支える職員力の向上と一体感の育成
- 交通ネットワークに対応した施策の展開
 - 広域交通網が整備され物流基地が充実するだけでは北部の活性化は望めません。この機を逃さず単に通過交通が増えるだけの状況を避け、逆に外から人を呼び込む魅力あるまちづくりが必要。
- 広い意味での健康をキーワードに安全・安心、健全な地域コミュニティの形成に結びつける
 - 健康都市宣言の中では、市民・地域・行政が連携して健康をはぐくむ仕組みを作ることになっている。隣近所の良い関係を築き、自治会加入率向上など地域コミュニティの健全な育成は安心・安全には欠かすことができない。
- まちの活性化に結びつく広域連携（多様な主体との連携）の推進
 - 様々な分野で実施されているが、連携する主体それぞれにメリットがあり、相乗作用が生まれることを目指す。（市民にもメリットを）
- 親への教育、家庭への援助なども視野に
 - 子どもたちが将来は親になり家庭を築き子どもを教育することになるので、今の子どもたちが置かれている家庭環境などに十分配慮し、地域や学校、行政が連携して子どもたちを見守り育てていくことが必要。社会人として自立するための就労支援も重要。
- 魅力ある藤沢市として全国から受験してもらえそうな市に
 - 制度を作っても実践するのは職員であり、職員の資質向上は最重要課題でもある。藤沢の良さを知ってもらい人材確保にもつなげる。
- 【課題・留意点】
 - 道州制を視野に入れた行政機能の整備
 - 地方税課税制度の法の見直しと、企業誘致による安定的な税収確保
 - 郷土愛を育む文化・スポーツ等生涯学習の充実
 - 公共交通（道路・鉄道・新交通）インフラの整備
- 【伸ばしたい点】
 - 白砂青松の自然あふれる海岸線
 - 文化・教養が高い市民の意識

- 歳入歳出のバランスを保つための市民意識の改革
 - これまでの過剰要求の抑制なくして収支バランスが保てないことから、様々な要請に対し市民自らが納得して選択出来るような仕組みが必要。
 - 身近な施設の維持管理などを自発的に行うなどの活動に対して市民が相互に評価出来るような取り組みが必要
- 市民がお互いに思いやりをもてる社会の創造
 - 思いやりをもてるような人と人との距離感を縮める学校教育のあり方、現時点で感性が伝わりにくい生活空間から一步外へ出る機会を与えるような仕組み作りが必要。地域あるいは各学校などで活動している若い親世代への支援や、一緒に行動してこれを支える、職員のモチベーションがもてる職場環境の整備。
- 基盤整備に必要な財源の確保と効率的な事業計画
 - 基盤整備には時間と巨額の資金が必要であり、初期から機能発揮できるような計画性をもった取り組みが必要。
- 市民が主体であるサービスのあり方
 - 今後、更に多様化する市民のニーズに対し、その必要性に応じた自主性を持ちながら主体的に市民が提供する市民サービスについて、人口減少と少子高齢化の進行に合った形態などあり方が課題となる。
- 子育てのサービス窓口の一元化
 - 育児経験の少ない市民や子育てに不安のある市民の相談窓口は、保健所、子ども青少年部、教育部、経済部と別れており、相談者の立場から考えると連携不足の状況がある。また、相互に情報提供や共有が難しい状況もある。相談者の困り感を受け止め継続して支援していかれるサービスシステムの工夫が課題と考える。
- 市外に出ていた市民が「親の家」に戻る条件整備
 - 今後、ライフタウンや片瀬山などの戸建て住宅に実家がある人たちを市外から転居しやすいように、公共交通や生活用品の買い物等の利便性を高め、落ち着いた住宅地、良好な住環境をさらに魅力あるものとして宣伝することで、人口減少を防いでいく方策を講じていく。
- 人口減少時代は避けられない現実

- 人口に左右される市税等の減少により財政規模が縮小する。
- 地域経済が循環しなくなる。
- 少子高齢化によるまちの賑わいやコミュニティなどの機能が衰退する。
- 郷土の文化や歴史が維持できなくなる。
- 人口減少を踏まえた新たなまちづくり
 - 暮らしを守る基本政策を着実に、いつの時代も変わらずに取り組むべき政策を着実に実施する。
 - ◇ 安全安心のまちづくり・地域コミュニティの育成・市民との協働・福祉の充実・教育環境の整備・環境の保全
 - 郷土への愛着と誇りが持たれることにより、郷土を愛する心が地域に住み続けたいまちをつくり、住み続けたい心が地域の活性化を招き、市域へ発展していくことで、新たなまちづくりが実現する。
- 多様化する市民要望への対応
 - 自然環境の保護，経済発展，福祉・教育・文化・災害対応の充実等と価値観の相違による市民要望が多様化する中で，対応すべき行政サービスが広範化している。
- 行政サービスの広域化と80%の満足度
 - そうした行政サービスの財源は，現時点で中長期的に想定される見通しは決して楽観できる状況ではない。サービスの優先順位付けや一自治体の負担を軽減する広域化の推進，また，サービスそのものについても全てに100%を求めるのではなく80%の満足度で実施する必要がある。
- 超高齢社会における地域のあり方
 - 人生65年時代から90年時代を前提とした社会の仕組み，施策の見直しが求められる。意欲・能力のある高齢者を社会の支えてととらえ，地域の再構築が課題となる。
- 藤沢市を担う市民の育成のあり方
 - 明日の藤沢を担う子どもたちを育ていくために，今後さらに学校，家庭，地域及び行政が連携・協働し子育て・教育支援体制づくりを進めることが課題となる。
- 地域社会における支援

- 子育て家庭やひとり暮らしの高齢者などが安心して生活できるよう、地域の中で支え合える地域コミュニティづくり。
- 将来の財政状況も見据えた、人口規模・構成
 - 将来にわたって健全財政を維持し、市民の満足度を確保していくためには、人口の規模・構成を考慮した上で、政策的な事業選択・まちづくりが必要
- バランスのとれた多面的文化都市の創出
 - 本市の歴史や自然を活かして、芸術、国際平和などの新たな都市機能や文化と共生したバランスのとれた多面的な文化を創出し、湘南のリーディング都市として情報発信する必要がある。
- 高齢者をとりまく課題
 - 今後市内の高齢者が占める割合が高くなっていくことは、避けられないことであり、高齢者を福祉的に支援を続けるために必要な経費は無限に確保できるものではない。いかに、財政負担を減らしていくかという施策への転換が必要である。
 - 就労機会が少ない現状において、高齢者に対する就労支援がどれほどの成果をあげられるかという課題がある。指定管理施設等高齢者の就労機会を与えられる事業の創設又は転換可能かの検討が必要。
 - バス路線の新設には越えなければならない課題や手続きが多い。現路線の見直し検討を提案しながら、コミュニティバスなど短距離路線の導入が可能かが課題。
- 再生可能エネルギーの普及と温室効果ガス削減に向けた考え方
 - 再生可能エネルギーの普及は、温室効果ガス削減に効果があるが、国のエネルギー計画や温室効果ガス削減計画を見据えた、本市施策をすすめる必要がある。
- 災害時のエネルギー対策
 - 本市の自然環境、地理的特徴等を考慮すると、最も適した再生可能エネルギーは太陽光発電システムであると考えられる。公共施設の建て替えに合わせ、災害時のエネルギーとしての活用を踏まえた再生可能エネルギーの導入をすすめる必要がある。
- 子ども達を育む行政と市民とのパートナーシップの構築

- 年々増加する高齢者を地域コミュニティ活動における人的資源として活用するための組織や体制の構築と地域がともに子どもを守り育むという共通認識を醸成するための行政と市民によるパートナーシップのあり方の検討が課題であると考えます。
- 地震・津波の災害対策に備えた避難施設、避難路等の施設等の整備
 - 本市南部の海浜地区における慢性的な道路の渋滞状況を踏まえ、災害発生時における緊急避難路や緊急避難施設の確保に向けた官民共同のよる対応策の検討とその実施に向けた優先的な予算の確保措置が課題であると考えます。
- 地域コミュニティの再生と充実
 - 支え合う（子ども・お年寄り・障がい者等）まちづくりには、地域コミュニティとしての自治会・町内会の役割・課題をしっかりと認識し、新たな団体等との連携も含め再生を中心とした積極的な取り組みが課題
- 人権教育・啓発の推進・充実
 - 一人ひとりの市民が尊重され、ともに生きるまちづくりに向けて学校教育・社会教育・市民啓発において、また特定職業従事者・企業・団体等に対して人権教育・啓発の積極的な推進が課題
- 適正な人口規模の確保（維持）としっかりとした財政基盤
 - 将来のまちづくりへ向けて、多様な市民ニーズに対応し満足いただけるサービスを提供するためにはしっかりとした財政基盤が必要であり、そのためには適正な人口規模の維持は重要な課題
- 災害対応の効率化を推進
 - 民間事業所における自衛消防力の確保、消防団や自主防災組織などの地域における総合的な防災力の強化に取り組む必要があるため、民間事業所や地域の防災力をどのように高めていくかが課題となる。
- 社会環境の変化等に対応する消防のあり方
 - 人口減少及び少子高齢化に伴い、市民ニーズや環境の変化に的確に応え、消防としての市民サービスを提供するために、個々の基本的な資質の向上を図りながら、将来的に「個の能力」を如何に「組織の力」として増幅させていくかが全庁的な課題となる。

○ 【課題】

- 指針の策定と実行に向け、職員のヤル気を喚起し参加できる組織風土の再構築
- 組織全体でのシティープロモーションの徹底
- 職員の意見反映の場の確保
- 女性の視点の反映

○ 【留意点】

- 国や県の動向
- 人口の増減率

○ 【早期に着手すべき事項】

- 本市の玄関である藤沢駅周辺再整備の本格化と、それに向けた国との連携強化
- 公共交通機関等、民間事業者との連携強化

新たな市政運営の総合的な指針策定検討委員会

藤沢の目指す将来像に関する意見提案

将来像として、藤沢をどのようなまちにしたいと考えますか。

- 1 市民の感覚，感情に帰結する将来像が多いです。
- 2 複数の要素で将来像を表現されているご意見が多いです。

キーワード

- 居住環境，生活基盤，交通，産業，商業，歴史，芸術文化，娯楽，仕事，自然環境，災害に強い，犯罪がおきにくい
 - 子ども，高齢者
 - コミュニケーション，ネットワーク，マルチパートナーシップ
 - 元気，活力，ぬくもり，人情
 - 郷土愛，「藤沢が大好き」，安全，安心，幸福，満足，「住んで良かった！」
- 高齢者や女性の社会参加を支援する居住環境，生活インフラ（都心居住，公共交通機関の活用，バリアフリー化）の整備されたまち
 - 産業や生活基盤を支える都市拠点間を結ぶ交通ネットワークの構築されたまち
 - 藤沢市に住んでいる市民一人ひとりが，「藤沢が大好きだ」といえるようなまち
 - 多くの市民が集え，商業，芸術文化，娯楽，仕事などがそれぞれ関わりを持ち，交流し，賑わいのある魅力的なものが溢れるまち
 - 誰もが生きがいと幸せを感じながら，安心して暮らせるまち
 - 市民協働などによりまちづくりを進め，元気，活力，ぬくもりや人情のある，しかも将来に渡って不安なく生活ができるまち
 - 赤ちゃんからお年寄りまでが安全・安心で暮らしやすい藤沢市，市民が満足して幸福感を得られる藤沢市を築きたいと考えています。
 - 各世代が「住んで良かった！」と思える実感がもてるまち
 - 近年，自治会への加入を拒み，また隣人との付き合いは稀薄となり，その

ような中で個々の生活が営まれている状況から、多様性に富んだ地域形成の中でそこに住まう人が自分らしく関わりあいが持て、また、行政との真のコミュニケーションが保てるまち

○ ふじさわのまちを見つめ直す

➤ 海と自然に囲まれた気候温暖な素晴らしい自然環境と、歴史と文化を見つめ直し思う存分に満喫できるまちに。また、藤沢を訪れる人が駅に降り立った時、優しい、穏やかな息吹が感じられるまち

○ 藤沢市の「将来像」については、すでに平成24年度及び平成25年度の施政方針の中で次のとおり示されていますので、これを基本に表現すべきと考えます。

➤ 将来像＝市民が安心して暮らせる「郷土愛あふれる藤沢」

➤ ビジョン＝①「法とモラルを守る藤沢」、②将来にわたって持続可能な「ずっと安心して暮らせる藤沢」、③「命を守り災害に強い藤沢」、④産業振興・地域活性化により再生する「いきいき働ける藤沢」、⑤「みんなにやさしい藤沢」※ なお、上記のうち(2)①「法とモラルを守る藤沢」は、「将来像」とやや意味合いが違うので、「ビジョン」から除外しても良いと考えます。

➤ 将来像については、ビジョンを、より分かりやすく具体的な表現で膨らませたものにしていくことが必要であると思います。

➤ それぞれのビジョンに係る課題や具体的な施策を挙げ、各課題や施策について、各課における計画等とも整合を図りながら、鈴木市政の考える「方向性」（「長期展望」だけでなく「中期展望」も含めて。）を示す必要があると思います。

○ 市民が誇りを持って郷土藤沢を愛し、幸せを感じられる、誰もが住みたい、住み続けたいと思えるまち

➤ 健康で元気に働けるまち

➤ 誰もが親切で、きまりを守り、困ったときに助け合えるまち

➤ 歴史や文化、自然環境を大切にし、守っていけるまち

➤ 産業（商業・工業・農業・水産業・サービス業）がバランス良く栄え、発展できるまち

➤ 子どもたちが地域に生まれ、元気に育つまち

- ▶ 災害に強く、犯罪が起きにくい、安全で安心して暮らせるまち
- 自然と文化がシンクロし、住んで楽しい、訪れて楽しいまち
 - ▶ 自然には地産地消も含み、文化には藤沢ならではの街並みや歴史を含みます。これまでも言われてきた南北縦断の地域資源を活かした観光の実現。特に北部の特産品を活かしたスイーツや花の名所などによって、山ガールのように目的を持った女性グループなどを呼び込み、様々な年代が様々な地域で楽しめる藤沢にしていきます。
- 地域の活力を高め、健康で健全に暮らせるまち
 - ▶ 心身ともに健康で互いに支えあって生活していくことは日常の基本であり、こうしたことから隣近所の挨拶や地域の連携も生まれてくるものと思われれます。このことによって、近年低下している地域コミュニティの活力を向上させます。
- 湘南の風土を活かし、新たな都市形態を目指すまち
 - ▶ 神奈川県は国内でも自立した自治体が多く、県や国との関係など都市制度のあり方について先進的な考え方を取り込める地域であるが、同時に市民も様々な意見をもっていると思われれます。まずは制度のあり方について研究を進め、当面は広域連携の拡充に取り組みます。(産・学・官連携やマルチパートナーシップなどの取り組みも都市形態という中に入れ込んでしまう)
- 子どもたちが夢を持って生きいきと暮らせるまち
 - ▶ 将来を担う子どもたちは宝であり財産です。そんな子どもたちが健全に育っていくためには、健全な地域・健全な行政・健全な教育が必要であり、東日本大震災後に絆の大切さが見直されている中、子どもたちが健やかに育つ環境整備を進めます。
- 藤沢のすばらしさを発信するまち
 - ▶ 本市は環境に恵まれ市民意識も高く、これまでも先進的な取り組みを進めてきています。イベントや制度の周知だけでなく藤沢の魅力や、行政では様々な場面で市の考え方や方向性などを積極的に発信していきます。
- 『他市の範となる基礎自治体に』
 - ▶ 本市においては2020年を人口のピークに全国他都市と同様に人口減少が進む中で、現在20%の65歳以上の高齢者が2030年には29%とな

り、14歳以下も14%から10%と少子高齢化が本格化することが予測されています。また労働者年令人口が大都市に集中することにより、労働・資金・資源の都市集中といった社会構造が今まで以上に拍車がかかると考えられます。本市の将来像としては、都市一極集中が進みまた道州制議論が進む中で、首都圏内に所在する自然豊かな都市であるという地の利を生かして、少子高齢化社会に対応した「職と快適な居住環境が整う都市」を目指していくべきと考えます。

- 社会生活を営む上で必要な施設が、身近に存在することができるまち
 - 少子高齢者社会の到来により、活動範囲が狭くても日常生活に必要な利便施設が適切に配置され、移動を補助する基盤施設や交通手段が備わったまち
- 心豊かな人が集うまち
 - 貧しい時代に存在した、相互扶助の感性が根付き近所付き合いが出来るような心豊かな人が普通に住み、産み育てたいと感じるまち
- 災害に備えた、安心で心強いまち
 - 災害時においても、安心して移動、居住できる施設と支える人が住むまち
- 市民の多様な生活形態に応えるサービスにより若者や高齢者を活動的に元気になるまち
 - 成熟した都市として、人口減少と少子高齢化の進行にあわせ、マルチパートナシップによるサービスが市民生活の暮らしをさらに安定させ豊かにし、それにより市民が人生の目標を持ち、活動し元気になれるまち
- 子ども達の笑顔があふれるまち
 - 子育て支援の充実と学校教育の充実、さらに若者が集う条件整備をおこなひ、子ども達の笑い声が響き、若者の活気にあふれ、少子化の時代でも安心して産み育てることができるまち
- 「平成版おらが学校」にみんなが集うまち
 - 小学校を地域の交流拠点として年齢層の違う住民が集い、地元の歴史文化を継承し、地域に根付いた新しいふるさとを作り続けるまち
- 人が元気・まちが元気・自然が元気・文化が元気～共創のまち ふじさわ～
 - 人とまち、人と人、人と自然、人と文化（歴史）のつながりを大切にしながらあらゆる元気を結集し、共に創りあげ、発展していくまち

- 湘南に輝き・栄え・伸びゆくまち～誇りと愛着のある私たちの藤沢～
 - 藤沢市歌に歌われている「わが藤沢市」を表す「輝きにおう」「栄えん常に」「伸びゆけ永久に」を理想として発展するまち
- 穏やかに、豊かな心で暮らせるまち
 - 技術革新等による生活を取り巻く環境が大きく変化し、生活の利便性、また、活動範囲は日々拡大している。行政サービスで味わった一定水準の生活環境は、行政が当然に維持し続けるものと市民は捉えており、少子高齢化等の社会変動が起こる中でも、それを意識した広域的な行政運営が可能となるまち作りが必要。
- 市民が安全・安心と暮らしやすさを実感できるまち
 - 超高齢社会が進行するなか、様々な社会環境の変化に対応するため、地域コミュニティを見直し・強化を図り安全・安心な生活環境が整備されたまち
- 自立と社会参加の意欲をもった市民があふれるまち
 - 市のかげがえのない財産である成熟した市民を育成するため、子ども・若者がいつも夢や希望を持ちながら、学びあう力を身につけ将来進んで地域社会づくりに参画するひとが育つまち
- 共に支え合い、誰もが暮らしやすいまち
 - 地域社会の中で人々が互いに支え合い、子どもから高齢者まで、障がいのある人も暮らしやすさを感じるまち
- 住んでいることを幸せだと市民が実感できるまち
 - 多様な市民ニーズに対しバランスよく応え、市民の満足度が高いまち
- 豊かな生涯学習社会を形成し、湘南の多面的文化都市を創出するまち
 - 市内4大学などとも連携して、家庭教育、学校教育、社会教育が充実し、いつでもどこでも生涯学習や生涯スポーツなどが行われるとともに、地域コミュニティも発展し、湘南文化の情報発信拠点としてバランスのとれた多面的文化都市を創出するまち
- 高齢者が元気で暮らしやすいまち
 - 高齢者の就労支援やボランティア等の活動拠点の整備、バス路線の充実などをすすめる、市内4大学との連携により、学ぶ機会を拡大するなど、高齢者がいきいきと暮らせるまち

- 循環型社会の形成や、みどりの保全など、豊かな環境を創るまち
 - 廃棄物の資源化がさらに促進され、三大谷戸の保全やビオトープネットワークが形成されるなど、豊かな環境を創るまち
- エネルギーの地産地消や有効活用をすすめるまち
 - 公共施設で発電したエネルギーを地域で消費する地産地消費システムを構築するとともに、災害時の避難場所のエネルギーとしての活用を図るなど、再生可能エネルギーの有効活用をすすめるまち
- 産業が発展し、雇用が創出されるなど、地域経済の循環が図られるまち
 - 市内企業、名産品などの知名度を高めるとともに、新たな産業を育成し、雇用が創出されるなど、地域経済の循環が図られるまち
- 地域ぐるみで子ども達を安心・安全に育むまち
 - 少子高齢化を踏まえ、今後増え続ける高齢者の参加を促し、行政と市民がパートナーシップをもって未来を担う子ども達を地域全体で育むことができるまち
- 地震・津波災害の対策が充実した安心して暮らせるまち
 - 海浜地区を有する本市の特性を踏まえた地震・津波の災害対策に備えた避難施設、避難路等の施設等の整備が充実した不安がなく安心して暮らせるまち
- 多種多様な災害に迅速、的確に対応する安全・安心なまち
 - 近年、都市の社会構造の変化に伴い、各種災害の大規模化や複雑化が進むとともに、高齢化による救急需要の増加など、消防を始めとした消防防災行政に対する新たな期待やニーズが高まっているなか、市の消防防災力を最大限に発揮し、市民の生命・身体・財産を守ることができるまち
- 防災関係機関との連携強化による災害に強いまち
 - 市長部局内は勿論、市全体の消防防災体制の整備及び確立を図るためには、防災関係機関等との連携強化による防災対応に特化したまち
- 人々が支え合うまち
 - 子どもから高齢者まで心豊かに安心して生活ができ、思いやりの心を持って互いに支え合うことができるまち
- 心の優しい人間が育つまち（人権を大切に「人権文化」を育むまち）

- 殺伐とした事件や犯罪が起きる中，安全で安心なまちづくりのためにも，まず藤沢に住み暮らす人が互いに人権を尊重し人権文化を育むまち
- 豊かな自然に囲まれ，横浜や東京との程よい距離により，時代の最先端を感じまたその恩恵を享受できることなど，この街は恵まれた環境にあると思う。そうした意味で，街づくりの課題は様々あるが，将来像のイメージは「この環境を活かせる街」であることを第一としたい。そのためには，街が適度な成長を続けられることが必要であり，10年後前後に本格化すると想定される人口減少を，一定程度補える範囲で，若い世代が訪れ住まいとして選択いただける街となること展望すると，キーワードは，「子育て」，「女性の視点」にあると考える。

めざす藤沢の姿（将来像）について（専門部会委員提案）

太陽と緑と湘南の海に囲まれた“あたたかい”まち藤沢

（理由）

「藤沢とはどんな所？」をイメージさせつつ、「人のつながり」や「暮らしやすさ」を大事にする都市でありたいと考え、あえて「あたたかい」を平仮名にしました。

海と緑につつまれた 愛される暮らしたいまち 藤沢

（理由）

「海と緑につつまれた」は東京との差別化として、自然の豊かさを大切にするべきという意味であり、「愛される」はまち全体で郷土愛を大切にするべきという意味、「暮らしたいまち」は人口減少社会の勝ち組を目指して、文化・産業・生活環境を重視し、暮らしやすいと実感できるまちをめざすという意味です。

湘南を愛する人がつどい、人も街も自然も豊かに輝きつづけるまち 藤沢

（理由）

湘南、藤沢の特長は定性的ですが、自然、産業、文化、市民、それぞれが格好良く、それぞれが認められているところだと感じています。そのことが、観光客を呼び、定住者を増やすまちの魅力であり、郷土愛あふれるまちとなるための土壌があると考えます。前段は、郷土愛の向上と人口の維持をイメージし、後段は、市歌や市民憲章から要素を抜き出してつくりました。加えて思うことは、各部長も市民感覚、感情に帰結することが多く、市長も郷土愛であったり実感だったり、人の内面に訴えることが多いように感じます。これは歴代の総合計画にはあまり出てこない部分だと思いますので、鈴木市政の特長として出せるものと思いました。

かがやける都市（まち） 湘南藤沢

（理由）

- ・ 歴史・文化、自然、産業が共に発展していく「輝いた都市」のイメージ

- ・ 人々が健康で、安心して、愛にあふれて暮らす「輝くような笑顔の市民」のイメージ
 - ・ 湘南の海が、太陽に照らされ、きらめく（輝く）イメージ
- この3つのイメージをシンプルに表現しました。

やわらかでやさしい風に誘われる、湘南の文化・産業・生活があるまち 藤沢

やわらかでやさしい風に誘われる藤沢 ～湘南の文化・産業・生活都市～

(理由)

市歌に歌われる「(松)風」,「文化」「産業」と「市民生活や地域への愛着のなから政策が創造される」という市政運営を中心に捉えつつ,湘南の生活スタイルである気候の温暖さと人の温厚さを「やわらか」と「やさしい」で表現しつつ,定住促進,誘客を「誘われる」で表現しました。この姿を都市像として補完し,市長公約との整合と重点目標への具体化を図りました。

(5つの都市ビジョン)

- ・ いのちと財産を守り,安全で安心な生活を実感できるまち(命を守り災害に強い藤沢)
- ・ 歴史や文化,自然と四季を大切に,郷土への愛着を実感できるまち(郷土愛あふれる藤沢,いきいき働ける藤沢)
- ・ 子どもからお年寄りまで,健やかな暮らしを実感できるまち(みんなにやさしい藤沢)
- ・ 都市基盤と産業,観光が栄えることによって,快適さと活力を実感できるまち(いきいき働ける藤沢)
- ・ 市政参加や地域でのパートナーシップから,共生・共創・共育を実感できるまち(ずっと安心して暮らせる藤沢,法とモラルを守る藤沢)

古くからの歴史・文化を土台とし、恵まれた自然環境、良好な生活環境、活力

ある産業環境が融合する 住みたい、住み続けたい、訪れたい都市

(理由)

- ・ 市民にとって、都市を評価するにあたって、最も身近な要素が「住み続けたい」か、ということだと思います。「住み続けたい」市民が増えれば、人口の流出

抑制につながります。また、市民でなくても、藤沢に「住みたい」と思われることや、買い物や観光等で「訪れたい」と思われることは、都市として魅力がなければ叶わないことであり、実現できれば人口の流入を促進し、人口の減少を食い止め、また、若い世代の流入によって、都市の活力衰退に歯止めをかける要素であると思い、めざす藤沢の姿として「住みたい、住み続けたい、訪れたい都市」がふさわしいと考えました。

- ・ 藤沢の今日の発展があるのは、古くから東海道の宿場として発展してきたことが土台としてあることから、「古くからの歴史・文化を土台とし、」としました。
- ・ 「恵まれた自然環境、良好な生活環境、活力ある産業環境が融合する、」という文章については、藤沢市の特徴として追加したものです。

最適な生活空間の確保

(理由)

藤沢市が現在から将来にわたり現在の人口を確保できるのは、最適な生活空間が確保できているためであり、今後も生活空間の最適性を確保していくことが重要であるからです。

※将来に向けての最適性を確保するための課題は以下のとおりです。

- ・ 清浄な空気と水の確保および廃棄物対策
- ・ 資源・エネルギー制約への対応
- ・ 安心・安全の確保（地域社会と住環境、災害、健康・介護）
- ・ 美しい街並みとコミュニティ意識の形成

「歴史と文化を継承する風光明媚な湘南の中心都市 藤沢」

「豊かな自然と伝統を継承する湘南の産業都市 藤沢」

「伝統を重んじ未来を拓く湘南の中心都市 藤沢」

「誰にでも優しくみんなに選ばれるまち 藤沢」

(理由)

藤沢市は、自然が豊かであり、様々な歴史的要素を持った湘南を代表する産業都市です。

また、人口減少社会にあっても、藤沢市は人口増加を続けており、これは人々に住みやすいまちとして選ばれている証拠でもあることから、今後もこれらの市の特徴を継続し、さらに発展していけるようなまちづくりをめざします。

愛される湘南のまち藤沢

(理由)

郷土愛あふれる藤沢」のイメージがなくならないようなフレーズを考えました。また、市民や観光客の藤沢のイメージはやはり【湘南】だと考えました。それらを踏まえ、シンプルで分かりやすく、普遍的な表現で考えました。

20年後に、子どもが育てやすいと「愛される藤沢」であってほしい。老後も安心して暮らせると「愛される藤沢」であってほしい。観光客からまた訪れたいと「愛される藤沢」であってほしい。文化や景観に親しみをもたれ「愛される藤沢」であってほしい。生活しやすい、働きやすいと「愛される藤沢」であってほしい。郷土愛に包まれた、誰からも「愛される藤沢」であってほしい。という思いを込めています。

住んでみたい、行ってみたい、働いてみたい 湘南の文化・産業・生活都市 藤沢

(理由)

市民生活の質を高め、質の高い生活が人の移動と経済活動の活性化を呼び起こし、まちを成長させ、活力あるまちが、さらに生活の質を高めるサイクルを生み出すことをイメージしました。

古いまちと新しいまちが共存する魅力あふれる都市・藤沢

(理由)

昔は、門前町・宿場町として、その後、江の島を中心とした観光地として栄え、現在は工業・商業都市としても持続的に発展している都市です。

めざす藤沢の姿は、「藤沢に訪れたい・藤沢に暮らしたい」と思われる都市。

本市に関わる全ての方々が、将来にわたり安心を感じられる活気ある都市。

このような都市にするために【5つの都市像】を掲げます。

① 「安全・安心都市」

- ② 「文化・環境都市」
- ③ 「福祉・健康都市」
- ④ 「快適・産業都市」
- ⑤ 「共生・共創・共育都市」

豊かで明るく美しい文化・産業・観光都市 藤沢

(理由)

藤沢には自然環境や歴史文化、産業や企業・大学の立地など、様々な資源＝強みがあります。こうした藤沢の強みを最大限に活用しながら、市民憲章にも謳われた、豊かで明るい美しいまちづくりを継続的に行っていくことが、市政運営がめざす普遍的な藤沢の姿であると思います。

計画の名称について（専門部会委員提案）

市政運営中期計画 2014（正式名称）

（理由）

民間でも長期計画よりも3～4年の中期計画を確実に実行しているのがトレンドらしいので、分かりやすい名称にしました。面白みがないので通称があった方が良いと思います。

第一次藤沢市市政推進計画（正式名称） ふじさわ市政ナビ（通称）

（理由）

重点化計画として事業までを位置づけるという点で「指針」ではなく「計画」とすること、「総合的」という手法ではなく、「市政」を「推進」するためのものであること、継続的な仕組みとして改定ごとに版を上げるという意味で「第一次」とすることからこの正式名称としました。通称については、市政を導くという意味を込めて「市政ナビ」としました。

藤沢市市政推進計画

（理由）

タイトルが市長交代時も基本的に変わらないという前提であれば、「〇〇ナビ」といった通称的なタイトルでない方がよいと思います。

藤沢市まちづくり基本計画（正式名称）

（理由）

ここ数年、新たな～、みんなの～等、長い名前の「簡易風名称」と通称がはやりましたが、あえて従来ながらのシンプル路線でも良いのではないのでしょうか？国の前政権がよく用いたこのような名称にみんなあきている？のではないのでしょうか？今後総合計画代わりに使用するのであれば、単純なほうが良いと思いますし、副題がわりにキャッチコピーを4年ごとに、市長の個性を反映して変えていけば良いと思いました。

ふじさわ市政優先施策2014-2016

(理由)

名前をみて、何が書かれているかがイメージできるようにするため、特に横文字等を用いないようにしました。「藤沢市政」の「2014」から「2016」年までの「優先」的に進めていく「施策」。「ふじさわ」としたのは、少しでも柔らかいイメージを持ってもらうためです。

最適な生活空間をめざして(正式名称) 藤沢市航海予定表(通称)

(理由)

将来像に向けて進めるための帆船(藤沢市)をイメージし、メインセール(第一の帆)、ジブセール(第二の帆)それぞれに重要となるテーマを位置づけ、最終目的地(将来像)に向けて船を進めていくイメージしています。

第一次藤沢市市政推進実行計画<新たな市政運営の基本方針> 「ふじさわアクションプラン2016」

(理由)

計画が“絵に描いた餅”にならないよう、アクション(行動)という名称を使用しました。将来像の実現に向け、計画期間内における確実な行動(事業着手)に努めることを目的(目標)としたプランとします。

湘南ふじさわ重点政策2015

(理由)

「〇〇計画」では、市民には総合計画から何が変わったのかが分かりにくいため、名称から内容が伝わりやすいもので、かつシンプルなものとしました。

ふじさわ市政cruise

(理由)

船に例えた鈴木市長が発言した言葉が頭に残っていて、cruiseを使ってみました。cruise=巡航=経済速度で走行する、3年~4年ごとに港による=その時々々の経済等に合う方向を見直す…なんていかがですか？

ふじさわ市政基本構想（２０１４－２０１６）

第一次藤沢市基本計画（正式名称） ふじさわ未来プラン２０１６（通称）

ふじさわ未来予想図

ふじさわの設計図

ふじさわの進む道

ふじさわ未来構想

ふじさわ市政戦略

ふじさわ市政大鑑